

2014年7月30日
昭和電線ケーブルシステム株式会社**メガソーラー向け長距離送電システムのコストダウンを実現****～ 国内初のアルミ導体ケーブルを採用した送電システムを受注 ～**

昭和電線ケーブルシステム（株）（取締役社長：大橋省吾、本社：東京都港区）は昭和電線グループの（株）エクシム（取締役社長：堀田信彦、本社：東京都港区）と共同で、長距離送電システムのコストダウンを実現するアルミ導体ケーブルを使った地中送電システムを開発しました。

現在、大規模太陽光発電（メガソーラー）の建設による変電所、開閉所間の長距離送電システムの需要拡大に伴い、建設コストの削減と工期短縮のニーズが高まっています。今回、コストダウンを実現するため、高価な銅に替わりアルミを採用したアルミ導体ケーブルに適合した気中終端接続部、直線接続材、T形終端接続部を共同開発しました。

本年7月には、日本国内のメガソーラー向けでは初の66/77kVアルミ導体ケーブルの地中送電システムとして、茨城県の袋田太陽光発電所向けの件名を東京パワーテクノロジー㈱様より受注しました。

太陽光発電や風力発電を新設する場合、一般的には、電力会社と連系接続するため発電事業者が送電鉄塔まで送電する必要があり、コスト・工期の点で新たな鉄塔を建設する架空送電ではなく、地中埋設で長距離を送電する事例が多くなっています。地中埋設の場合、アルミ導体ケーブル同士の接続や機器との接続は技術的な課題があり、国内では系統間すべてをアルミ導体とアルミ導体に適合した部材で構成された長距離送電システムは普及が遅れていました。昭和電線グループでは新たにアルミ導体ケーブル用部材を開発することで信頼性を確保し、長距離送電システムのコストを抑えることに成功しました。

◆アルミ導体ケーブルシステムを使った送電システムの特長

- ・ **コストダウン** 銅より安価なアルミを導体として使うことでコストダウンを実現
- ・ **工期短縮** 発電事業者主体の連系接続工事により、工程管理が容易
- ・ **信頼性向上** アルミ導体に適合した部材の開発により部品点数を減らし信頼性が向上

◆受注件名の概要

- 納入先 袋田太陽光発電所(茨城県久慈郡大子町) ※
総出力： 24MW (24,000kW)
年間発電量： 約2,500万 kWh (一般家庭7,000世帯程度の年間電力量に相当)
商用運転開始： 2015年4月予定
付帯設備： 特高変電所 22kV/66kV
施工会社 東京パワーテクノロジー㈱
- 納入品目 ① 66kV AL-CVT-SS : 150SQ ケーブル 7,400m
② ダイレクトモールド気中終端接続部 4組 (12相)
③ ゴムブロック直線接続部 15組 (45相)

※袋田太陽光発電所は、スペインの自動車部品大手、ゲスタンプグループが出資する日本法人ゲスタンプ・アセティム・ソーラー・ジャパンが全国展開するメガソーラー・プロジェクトの一つです。

◆今後の予定

昭和電線グループでは、これまで培ってきた電力ケーブルおよび電力用機器部品（S I C O N E X※）の技術を活かし、超高圧ケーブル送電の技術開発に取り組んできました。

今回の袋田太陽光発電所での採用を実績として、今後の需要拡大が見込まれる再生可能エネルギーの長距離送電システム向け分野において、一般的な銅導体ケーブルと比較してメリットのあるアルミ導体ケーブルを使った地中送電システムを積極的にご提案し、今後の事業の足掛かりとしていく予定です。

2014年10月より本格的な販売を開始し、2015年度には10億円の販売を目指します。

※ S I C O N E Xは、昭和電線ケーブルシステム㈱の登録商標です。

以上

この件に関するお問合せは、下記へお願いします。

昭和電線ホールディングス株式会社 経営企画部 I R・広報グループ TEL 03-5404-6951

太陽光発電システム系統例

